



8月26日、飯田人形劇場での 「エコタウン飯田で循環社会を考える」 150人の熱い3時間半

シンポジウム「エコタウン飯田で循環社会を考える」が飯田人形劇場で開かれ、150人余の参加者がさまざまな事例から循環社会について考えました。



(シンポジウム会場の飯田人形劇場)

主催は「循環社会推進国民会議」と「NPO 法人南信州おひさま進歩」と私たち「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」。開催に当たって私たちは地域の取り組みを発表するだけの場にしたいと言ってきました。あくまで「飯田で」、「飯田の」ではない議論をしたいと考えました。できるだけ飯田の事例を減らし尼崎や仙台の取り組みなどから学ぶ機会としました。

生徒会から発信する 飯田工業高校のISO推進



全日制・定時制含め552人の県立高校。以前から学校周辺のごみ拾いや自治会への溝ジョレンの寄贈を続けてきました。生徒会執行部がISOの推進委員としてISO挑戦。

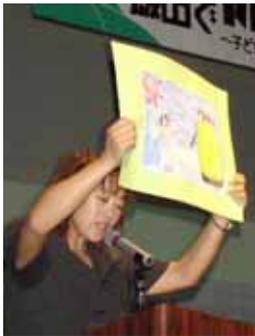
環境ISOの取り組みは2002年の文化祭でキックオフされ、当面地域独自のEMS「南信州 いむす21」の登録を終えています。生徒会執行部とは別に「ISO推進委員会」もでき、環境にこだわった文化祭も行われています。次のステップとして本格的なISO認証取得をめざしています。

環境の取り組みを通じ地域との接点も多くなっています。他の高校への呼びかけは？次の生徒会が考えてくれると嬉しい！...笑いがおきました。生徒会が中心に無理なく、しかし着実に進めています。

市民太陽光発電の設置を契機に 明星保育園の環境教育

私立明星保育園の屋根の太陽光発電は「NPO 法人南信州おひさま進歩」が設置した第一号。この設置をきっかけに保育園では太陽の光により発電されている様子をチェックするなど環境教育が進められています。

園で学んだ子どもたちは家に帰って暗くなっても電気をつけようとしなくていいそうです。電気を消すために早く寝ようと父親にせがむそう。



最後に年長児が描いた夢の絵の紹介がありました。おひさまの光を受けて空飛ぶマントに変身。おひさまの光で大きな森をつくって大好きな虫たちと遊びたい。おひさまの力を借りてどんな病気も治す機械をつくりたい。子どもたちの夢にとっておひさまパワーは無数の可能性を持っています。

加藤三郎さんが話題提供 そしてパネルディスカッション



「循環社会推進国民会議」の4つの提言を説明しました。社会から「ごみ箱」をなくそう。モノの生産・流通に携わる事業者がもっと責任を持つようにしよう。

必要なモノだけを買おう...買ったモノは大切に使う。環境をまもる費用を目に見える形で、みんなで負担し合う仕組みをつくろう。では循環社会がどこまで進んでいるか、いないかを検証。

詳しくは次の「加藤三郎リンク集」を。
<http://www.neting.or.jp/eco/kanbun/kato/link.htm>



「循環社会とエネルギー」

日本野鳥の会 小林 料さん
「100年かけて尼崎に森を創る」

NPO法人イ・キューブ 今堀洋子さん
「まちと企業の活性化をめざす」

NPO法人環境会議所東北 山岡講子さん
「おひさまのパワーを活かして」

NPO法人南信州おひさま進歩 原亮弘さん
コーディネーター藤村コノアさん、

コメンテーター加藤さんによってそれぞれの発表が進められました。発表内容にかえて「循環社会に近づくポイント」との問いへのそれぞれの答えを紹介します。「環境問題は生活習慣病と同じ。総論から一歩踏み込むことが大切」と原さん。山岡さんは「誰かがやるのではなく自分たちがやること。適正な環境活動は適正な経済活動でもあるべき」。「結局は人間第一。人と人とのつながりで少しずつ認識を共有していく」と今堀さん。小林さんは「環境を守る費用はみんなで負担すること。その土地にあったエネルギーの選択。長期の視点が大事。人類究極のエネルギーは太陽エネルギー」。

お互いを刺激し合うネットワークに



それぞれの地での活動に参加者全員でエールの拍手をおくり閉会となりました。今まで以上に情報発信をして楽しく刺激し合いたいものです。議論の結果は「飯田からの発信」として提言されることとなります。

たくさんの不思議な「縁」を感じました。仙台で若菜集を書いた島崎藤村ゆかりの馬籠で加藤さんの紺のプリウスが仙台からの2人を乗せた飯田市の白いプリウスの前に偶然出ました。2台の新型プリウスが木曾路を、そして飯田まで連なって走りました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



地域ぐるみで環境文化都市へ挑戦 元気大賞 2004 特別賞に!!

NPO 法人「持続可能な社会をつくる元気ネット」主催の「元気大賞2004」の特別賞を研究会が受賞することになりました。応募 25 件のうち、大賞は NPO 地域づくり工房(同じ長野県の大町市) 1 件、奨励賞 2 件、特別賞 3 件でした。

持続可能な社会をつくる

元気ネット

<http://www.genki-net.jp/>

元気ネットのホームページにありました。「元気大賞」とは 1996 年以来、循環型社会をめざす全国の仲間の情報交流ネットワークとして歩んできた「元気なごみ仲間の会」が、市民の立場から持続可能な社会の具体化を推進するために、2001 年に創設した新しい仕組み。「21 世紀の暮らしと環境のまち」を創造しようと、全国各地で生まれている取り組みから多くを学び、応援するために、活動を募り、先進事例を評価し、広く社会に公表しようというものです。

「環境と経済の好循環のまち

全国サミット in くずまき」で
9月25~26日、受賞と活動発表



9月25日(土)~26日(日)に「環境と経済の好循環のまち」への実践事例と課題を共有する全国サミットが岩手県葛巻町で開催されます。「元気大賞 2003」の大賞を受賞したのが葛巻町、このサミットで表彰状があり、活動発表をします。危ないほど元気な葛巻町の皆さんに再びそして全国各地の「元気」に会えるのが楽しみです。「全国子ども環境活動フォーラム」も同時に開催され、日本一の新エネルギーのまちエコツアーも行われます。一度、元気ネットのホームページをご覧ください。



循環社会推進国民会議シンポジウム 「エコタウン飯田で循環社会を考える」 8月26日、飯田人形劇場で

「循環社会推進国民会議」と「NPO 法人南信州おひさま進歩」そして当研究会の主催でシンポジウムが開かれます。飯田市や NPO 法人環境文明 21 などの共催、朝日新聞長野総局をはじめ地元マスコミ各社の後援もいただきました。

副題は「子どもたちに豊かな未来を残すために」。いま誰もが望んでいる循環社会は本当に実現できるのか。実現させるために私たちは何をすればいいのか。パネルディスカッションや意見交換を通じて、身近な問題から地球レベルの課題を克服していくための手法を探ります。そして、「南信州 いだ」をステージとする実証への大きな一歩とし、全国に発信したいと願います。

飯田の地での新しい芽を 外の目でも検証したい

私たち研究会の環境関連の賞への挑戦・応募は、自分たちの取り組みを外の目で評価してもらうためのものです。応募の前段で活動を整理する必要があります。そもそも何のためにやっているのか、めざすものと現状のギャップは、課題は、今後どうしていったらいいのか。そして、他の組織との交流は新しい気づきをもたらす新鮮な外からの風なのです。

地元の取り組み事例の紹介

話題提供、パネルディスカッション

シンポジウムは 8 月 26 日(木)の午後 13:30~17:00 です。「りんご並木と人形劇のまち」飯田市の飯田人形劇場(定員 200 人)で行われます。

9:00~13:00、希望者の参加で、エコツアーもあります。環境産業公園~天竜峡エコバレー(天竜川総合学習館)~昼食(そば)~りんご並木。少々欲張り、かけ足ですが。

飯田工業高校・明星保育園

ポスト環境自治体会議 いだ会議として

県立飯田工業高校生徒会は研究会が進める地域独自の EMS「南信州 いむす 21」の 45 番目の登録証を受けました。なぜ高校生が始めて、続けているのか、その取り組みとは。

私立明星保育園は飯田での第一号の市民太陽光発電をその屋根に設置しました。その点灯式は環境自治体会議飯田会議の第 4 分科会でした。

加藤三郎さんからの話題提供

実務者全体会にも参加し研究会と交流を続ける「循環社会推進国民会議」事務局長を務める加藤三郎さんから話題提供を受けます。

パネルディスカッション

藤村コノエさん(NPO 法人環境文明 21 専務理事)をコーディネーター、加藤さんをコメンテーターに進めます。パネリストは次の皆さんです。様々な立場・視点からの検証、期待します。

今堀洋子さん(追手門学院大学経済学部講師) 小林 料さん(財.日本野鳥の会顧問) 原 亮弘さん(NPO 南信州おひさま進歩事務局長) 山岡講子さん(NPO 法人環境会議所東北常務理事)

5月の環境自治体会議 いだ会議に参加できなかった皆さん、ぜひ、このシンポジウムで飯田にお越しください。研究会の仲間が皆さんを心からお待ちしています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林梅如(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp



組織外からのべ103人参加 飯田市役所の相互内部環境監査



7月7日から約1か月間行われた飯田市役所のISO14001内部監査が30日の環境管理責任者・事務局へのシステム監査で終わりました。全国のネットワークを通じて、のべ103人の参加。全ての被監査部門にと調整した昨年(106人)とほぼ同数の組織外の人を受け入れました。忙しいなか遠い飯田まで来ていただき、本当にありがとうございました。

飯田市役所の場合、被監査側は本庁舎にある34課(室)と2つに分けたISO事務局、計36が対象です。そのうち、32か所に組織外の「相互内部監査員」のべ45人「オブザーバー」のべ58人を加えて行いました。

今回の通信に使った写真は全て30日の監査の様子です。組織外から7人が相互内部監査員として、10人がオブザーバーとして参加してくれました。これって異常？

お互いに受入れ・出向く 相互内部監査員・オブザーバーとして



飯田市役所の内部環境監査は市の職員である内部監査員に組織外の「相互内部監査員」を加えた「相互内部監査」で行っています。4年目になりました。「相互内部監査」はそれぞれの組織の内部監査にお互いに受け入れ出向き、システム改善に役立てるため内部監査員として指摘・助言を行うものです。お互いの内部監査能力の向上や運用しているシステムのレベルアップをめざすものです。

今年は県外からの参加が 研究会・県内自治体のほかに

研究会のメンバーや長野県内の自治体の仲間のほか県外からも多くの参加をいただきました。東京都・横浜市・富士市・加賀市・新城市・多治見市の6自治体のほか、3人の環境マネジメントシステム審査員、企業担当者、大学生も参加してくれました。

他の業務との調整で内部監査の時期を10月・11月から7月に変更しました。研究会にとっては忙しい時期に当たってしまったのか、今年は研究会の参加が昨年の40人から29人へと減ったのが気になります。行政のISO、市民によるチェックという意味からも研究会のメンバーに参加してもらいやすい仕組みにこだわる必要もあります。



今年からの新しい試み 研究会3人も監査チームに

今年は内部監査員に任命された市役所の課長職など26人の職員と地域ぐるみ環境ISO研究会事業所の3人計29人が9つの監査チームに分かれ、2人1組で担当しました。

建設関係の専門的な知識を持つ研究会メンバー3社(吉川建設株、木下建設株、(株)アース・グリーン・マネジメント)の担当者が実施した建設部4課の内部監査は大きな成果・収穫となりました。



審査登録から自己適合宣言への移行の時に環境方針を高く掲げました。その環境方針に向かってより具体的に取り組むために今年は多くの課題があちこちの監査で指摘されました。

今までのように記録がないとか、提出がないといったものではなく、システムの根本に関わる課題です。

自らを変える力には限界がありません。外からの力を借りて、よりよいものに変えていきたいと願います。内部の人だけで行うのではなく、外の人を受け入れる相互内部監査という仕組みも課題がまたしても見えてきました。そして、もっと素晴らしいものにしていく自信もできました。

運用開始から丸5年 ホソネの議論ができるように

1999年9月環境方針を定め運用を始めてから丸5年。加えたり減らしたり不十分ながらもシステム改善を繰り返し環境マニュアルも13版。基本の「紙ごみ電気」の取組も大事ですが本来業務へのシフトが求められています。自己適合宣言や相互内部監査、外からの期待は許してくれません。ようやく、そうした議論ができるようになった、そう感じます。



今回の内部監査の結果は、代表内部監査員(総務部長)、内部監査チームリーダーらによって総括され、環境管理委員会の席上、市長に報告することになります。そして、飯田市役所のシステム改善に向けて重要な情報として取り扱われることになります。

まだまだ5年ほどのシステム運用。しかし、私たちはISO、内部監査、自己適合宣言を通じて、この地域だけでなく実に多くの人たちと出会い、交流を始めています。

新しい環境文化の創造という研究会の理念を確認し、この地域の元気のため、新しい実験と挑戦を続けていくつもりです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp



飯田市役所の相互内部環境監査 多くの参加で最後の週に

飯田市役所の今年の内部環境監査は7月7日の水道業務課から始まり、今年も組織外の人たちの参加を受け入れる「相互内部監査」を広く呼びかけ、これまで、のべ66人が参加いただきました。残すは来週3日間、30日の環境管理責任者と事務局の監査で終わる所までできました。

研究会メンバーが主体で行う 建設部事業課の内部監査



4年目の飯田市役所の相互内部監査は、昨年の反省から参加者を次の2つに分け募集しました。資格要件を設け、内部監査への積極的な関わりを目的とした「相互内部監査員」。

見学や体験を通じて、この相互内部監査という仕組みを考えてもらう「オブザーバー」。が若干多い程度。

さらに今年の実験、専門的知識が求められる建設部事業課の内部監査は研究会メンバーが担当しました。



土木課には自己適合宣言の視察に来た東京都、横浜市や富士市、多治見市など10人が参加。研究会以外でも毎年参加する人たちもいます。そして今年は審査員や県外の自治体や民間企業など遠くからの参加も目立ちます。どこも悩んでいるのでしょうか。

飯田市役所も相互として参加 上田市事務局の内部監査



7月23日に上田市役所で行われた事務局の内部監査に参加しました。飯田市のほかに中野市から二人、上田信用金庫・シナノケンシ・上田ガスという上田市内の民間企業も参加。

上田市は今年の内部監査の結果を分析し自己宣言への移行を検討する、上田信用金庫も移行への準備を進めているとのことでした。上田の地の方が地域として自己宣言に大きく動き出すのかなといった感じです。

30日にはこの上田市・中野市・上田信用金庫が飯田へ来てくれます。まさしく相互内部監査です。上田市の内部監査でさっそく資料をもらってきたのが「エコイベント」のマニュアルです。相互内部監査もひとつの視察・交流、互いに足りないものは補い、いいものは取り入れていきたいものです。

上田からの帰り、FM長野で タテタカコさんの「そら」

上田からの帰り松本で別の用事をすませ、プリウスのラジオをたまたまスイッチをオン。タテタカコさんがパーソナリティーをつとめるFM長野の30分番組が流れてきました。



タテタカコさん、楯隆子さん。環境産業公園視察や太陽光発電の受付など飯田市環境保全課で仕事しています。

この22日にパップから全国発売されたファーストミニアルバム「そら」にはこの夏公開される是枝裕和監督のカンヌ受賞映画「誰も知らない」の挿入歌「宝石」が入っています。そして今日24日は彼女の誕生日。

彼女のこの歌を 飯田の元気につなげたい



「もどかしくて眠れん夜のはじまりに作った『宝石』から、今ここに存在する自分まで、何年もの自分がこの中にあります。今回、じっくりゆっくり録音していただいて、わしの中で明るみに出てきて脱皮した歌が入っております。身近な場所、身近な音、身近な人たちのあったかい協力の中で作りました。わしの中にいるもうひとりの自分も、みんなここから、それぞれの空を見上げているのです。ぜひ聴いて下さい。」とタテさん。ホームページもぜひ。

<http://tate.navelfactory.jp/index.html>

今さまざまなチャレンジが それらを飯田の元気に

環境自治体会議 いだ会議から早2か月。「りんご並木と人形劇のまち飯田」は人形劇フェスタ、飯田りんごん、アフィニス夏の音楽祭などイベントの夏。店のショーウィンドーにはプロ人形劇団の人形たちが登場。

いろいろな挑戦が始まっています。タテタカコさんも小さな挑戦を積み重ねた結果、自分にできる挑戦は何か？自分がすべき挑戦は何か？暑さに流されないで考えたいものです。さて、研究会の挑戦はといったい。。あらためて研究会が何をめざすのかも。。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



信州環境フェア2004 今年も研究会で出展



7月17日(土)18日(日)の2日間、長野市のビッグハットでの「信州環境フェア2004」に今年も研究会としてブースを出し参加しました。長野県環境保全協会などで行う実行委員会が主催し、今年のテーマは「持続可能な社会への変革～エコライフで、暮らしが変わる、社会が変わる！」。



2001年第1回は松本のやまびこドームで、2002年からはオリンピックが開かれましたビッグハットで続けられています。親子での参加が目立つ暑い？環境フェア、会場内では多くのウチワが動いていました。



今年は2日間で約1500人参加というイベント。出展企業や団体の顔ぶれも変わってきています。出展のブースから新たな交流と発見が研究会の大きな財産になっています。

17日午後の地球環境大会 加藤三郎さんの環境力

フェアの一部として行われる地球環境大会。加藤三郎さん(株)環境文明研究所所長から「日本を元気にする環境力～地球市民の心と知恵」の話がありました。8月26日(木)には加藤さんが事務局をつとめる循環社会推進国民会議のシンポジウムが飯田人形劇場で開かれます。



加藤さんは「環境力の中身」をこのように説明されました。環境の未来を直視する確かな先見性と知恵、それを経営戦略に組み込める戦略性と技術力、公平・公正の感覚や社会的責任(CSR)の自覚、方向を示し、人材を育成し、活動を鼓舞するリーダーシップ。受賞という評価をいただいている研究会の「環境力」は果たして..。

「南信州 いむす21」で地域づくり 萩本代表が事例発表

地球環境大会は加藤さんの基調講演に続き地域ぐるみ環境ISO研究会と星野リゾートから事例発表。翌日は高校や研究機関の自然環境に対する事例発表がありました。

研究会の発足から活動の紹介、「南信州 いむす21」の展開についての30分の事例発表がありました。研究会の事務局として事例発表の機会も多くあります。しかし企業のトップとして萩本代表からの話は、研究会活動を地域戦略として仕掛けることをあらためて確認させられました。



まずは興味や関心を いかに持ってもらうか



会場の向かいにあるNHK長野放送局もこの環境フェアを大きく支えています。金色のガッシュベルのぬいぐるみショーやどーもくんの環境クイズ、このイベントにはなくてはならないものになっています。

やはり、ぬいぐるみショーの力はすごい。どんな展示や景品も相手になりません。研究会内の親睦、そして他の出展者との交流。展示内容にこだわらず、このイベントへの参加を楽しむことを第一に考えています。

盛り上がりがすごかった サイエンスエコロジー



米村傳治郎サイエンスプロダクションによる空気をテーマにした科学ショー。西村さんの話術とわかりやすい実験に会場全体がひとつになりこれまでの中で一番盛り上がった瞬間ではなかったではと感じています。

研究会も環境イベントを主催したり共催することも多くなりました。「楽しい」ことが一番。限られた予算やスタッフのなかで難しいことですが、何よりもやる側が本当に「楽しめる」かどうかではないでしょうか。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「浜岡原子力発電所」へ 実務者事業所見学会



7月5日(月)飯田から約4時間をかけて中部電力(株)浜岡原子力発電所(静岡県御前崎市)を訪ねました。昭和51年に1号機が営業運転を開始してから28年。5号機の完成が間近なこの施設では同社・協力会社合わせて約3,500人が働いています。

今回の事業所見学会参加者は16名。バスが中央自動車道に入ると、冊子のほか、ビデオ3巻を使っただけの予習が始まりました。



この日のガイドは中部電力(株)飯田支店で広報を担当している宮澤邦彦さん。浜岡原子力発電所のことだけでなく、道中の珍メニューまで知り尽くしています。

豊富な水力により発電が行われている伊那谷。しかし現在では、伊那谷で消費する電気の2~3割が県外の火力発電所または原子力発電所から送られてきているそうです。

まずは「浜岡原子力館」



発電所に隣接する「浜岡原子力館」で学んだ「原子力発電の基礎」「浜岡原子力発電所の概要」からいくつか。

建設に必要な4条件とは



広大な土地 頑強な地盤 大量の水 地元の同意 これが原子力発電所の建設に必要な4条件。の水は冷却用ですが、浜岡5号機に必要なその量は毎秒約100トン。このため原子力発電所と火力発電所は海の近くに建設されるのです。

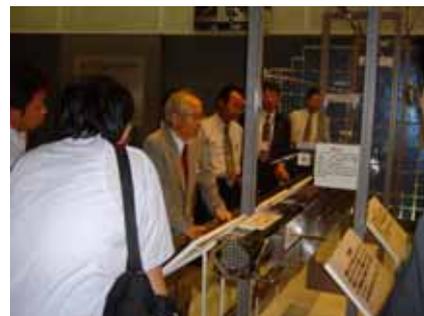
進む「プルサーマル」

原子力発電所ではウランを燃料にしていることはよく知られています。このウランペレットは約4年間働くと、安全のため地下300mに造られた施設に処分されます。



しかし、ウランは化石燃料とは違い、使用後も使える部分が残ります。使用中に変化するプルトニウムと核分裂せず、97%も残ったウランを取り出して加工し再利用することを「プルサーマル」といい、ヨーロッパでは既に実用化されているとの説明を受けました。国内でも実証試験で安全性が確認されています。

「プルサーマルをするべきか」という議論の際にあげられる「コスト比較」しかし、ウラン鉱石の残量も約60年分とのこと。貴重な天然資源は大切に使わねば...



緊急事態への準備

いよいよ発電所の敷地に入り、門を通ると「ここから先は撮影厳禁です。」と注意されます。小さな事故まで公開している中部電力がなぜ? 答えはテロ対策でした。また、発電所建物(最初の写真)に窓がないことに気づきましたか? 2mの鉄筋コンクリートで囲んだ建物内は外より気圧を低くしてあるため、万が一穴が空いても放射能の拡散を防ぎます。



今回の体験は研修センター。ここでは発電所に従事する職員が、様々なトラブルを想定して訓練をしていました。設備は発電所のものと全て同じ。私たちも運良く、原子炉下での保守作業を模擬体験できました。

体験しなきゃ伝わらない

こうして2時間半の見学会が終わり、帰路のバスで一番感じたのは「百聞は一見にしかず」。冊子などでは理解し得ないことの多さに感服しました。今回学んだことのほとんどが紹介できませんでした。参加できなかった皆さんはせめてホームページで。

<http://www.chuden.co.jp/hamaoka/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



4年目の飯田市役所 相互内部環境監査

ISO14001の審査登録から自己適合宣言へ移行している飯田市役所の内部環境監査が7月7日(水)から始まりました。市役所職員である内部監査員に組織外の人を受け入れての「相互内部監査」も、はや4年目です。



初日は水道環境部の4課(水道業務課・環境保全課・水道課・下水道課)と総務部の3課(人事課・納税課・財政課)が対象でした。理事者も必ず1度は参加することになっていて田中市長も水道業務課に参加しました。

初日7日はのべ11人 相互内部環境監査

相互内部監査は2001年度研究会から7人を受け入れ始まりました。2002年度からは県内自治体など49組織のべ71人が参加。自己適合宣言へ移行して初めての2003年度はすべての課に県外や審査機関から97組織のべ106人を迎えました。



今年度初日の7日は研究会から中部電力飯田支店のほか遠く加賀市役所と滋賀県立大学の学生のべ11人が参加してくれました。昨年の相互内部監査の検証から今年は参加条件を満たす「相互内部監査員」と見学としての「オブザーバー」に分け募集し、内部監査への関わりも整理しました。



県外からの参加が多く 現在の申込はのべ74人

20日の建設部事業課の監査は市役所職員ではなく研究会が主となって進めることになっていますが、地域外・県外が多いのが今年の特徴です。相互内部環境監査といっても参加してくれる人の善意に甘えている仕組みです。遠くから参加してくれる人には、旅費も場合によっては宿泊費も負担してもらおうという無理のある仕組みと云わざるをえません。



飯田市役所の自己適合宣言は地域の仲間に支えられた仕組みです。地域の研究会の仲間による相互内部監査が透明性や客観性の大きな担保となっています。どんなに遠くから力量のあるベテランの審査員が多く参加してくれたとしても、地域の仲間の参加が少なかったとしたら、この相互内部監査は成功とは言えません。

とはいえ、遠く県外からこれまでのさまざまな縁によって来ていただく人が多く、嬉しい限りです。日程調整と出費というたいへんな負担で参加していただけることに心から感謝します。数だけが目標ではありませんが、研究会ははじめ多くの人の参加をお待ちしています。市役所のホームページ「環境情報」...から確認し連絡してください。



ハイブリッド車が飯田 普及日本一のまちをめざして

「ハイブリッド車が飯田(いんた)」という取り組みが始まりました。グリーンコンシューマー活動を続けている「グリーンクラブいんた」が長野トヨタ(株)飯田支店とタイアップして始めた、その仕組みとは一体...



「プリウス」環境文化都市モデル 特別仕様を特別価格で

自転車が少ないと不思議に思った人もいたというほどアップダウンの多いこの地域に車は生活必需品です。「ハイブリッド車を選択すること」も立派なグリーンコンシューマー活動。

「特別仕様車」プリウスは、車両本体+DVDナビ+エコマット+ペイントシーラント加工(4点セット)を基本形としています。

温室効果ガス10%削減という 飯田市全体の目標がある

「グリーンクラブいんた」は7月から来年の環境月間までの1年間この活動を続けます。当面50台をどのくらいの期間で紹介販売できるかに挑戦するとのこと。プリウスに貼る環境文化都市のステッカーもでき、どれだけの人が応じるか楽しみです。

対象者は、飯田市内にお住まいの方、市内に所在地のある会社にお勤めの方、車の車庫証明が市内の方、とのこと。

「グリーンクラブいんた」

代表 今村良子さん 事務局 荒木さん

green-club@trust.ocn.ne.jp

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp



「ムトス」って何？

飯田人形劇場で「第1回ムトス塾」

6月28日(月)18:30から約2時間飯田人形劇場でムトス飯田推進委員会が主催する「ムトス塾」なるものが開かれました。飯田市のまちづくりの原点は「ムトス」とよく言われます。はたして「ムトス」とは何か、あらためて原点に戻って考えてみました。

19日の自治体環境グランプリ表彰式でも「ムトス」という言葉が話題になり、祝賀会で田中市長から説明した経過があります。

1985年に「ムトス飯田賞」を設立して今年で20年目。これまでの歩みを振り返るだけでなく、広く市民が「ムトス」を意識し、足元から行動を起こすきっかけとする連続セミナー「ムトス塾」の開催となりました。

玉井袈裟男 信州大学名誉教授

「飯田で学ぶ、飯田に学ぶムトスのこころ」



第1回目の講師は「ムトス飯田」の名付け親、飯田で「風土舎」を主催している玉井袈裟男さん。「ムトスと私」につけた副題は「飯田で学ぶ、飯田に学ぶムトスのこころ」でした。

まずは地理学者三沢勝衛の著書「風土産業」との出会いの紹介。地理学で解明された地域の特性を生かした産業の振興、風土性を活用してこそ価値があるという風土産業論。「泣かされているものこそ、視点を変えて考えよ」「珍しい現象を例外と見逃すな」「風土を見る目、キャッチせよ」

「自分の頭で考える」が口癖の三沢勝衛については諏訪清陵高校のホームページで...

http://www.nagano-c.ed.jp/seiryohs/bunken/mb/mb_main.html

何かをしたのではない

何かしようとしただけ

1974年3月伊賀良公民館での農業青年たちとの会合。農協からけしかけられて予約した耕耘機ハルカゼ19台が品薄で届かないと不満。陳情しようとしていると何と全てが届きました。何かをしたのではない、何かをしようとしただけ。動かそうとする力の有無の差は大きいもの。

行政は「チョキ」、民衆は「パー」、「パー」より弱い「ゲー」は議員であるとのこと。

スナックのホステスさんから問われた

日本語最後の言葉は？

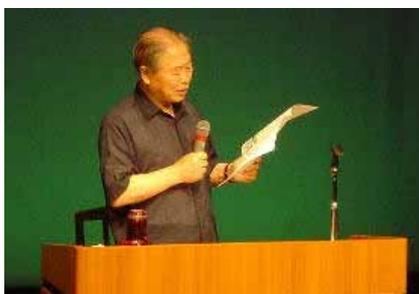
16の公民館主事が隣町との合併による10万都市構想を自分たちの手で作ろうとし玉井さんが聞き役になりました。検討の末「生涯学習都市飯田市」にしようとしたが掛川市がすでに宣言済み。主事たちがあつちで呑んでいたときホステスさんから教えられました。広辞苑の20万語最末尾の言葉は「～んとす」、英語の「will」であるということ。そうだ、「ムトス飯田」はどうか？

「ムトス 君」と「ムトセズの君」

玉井さんが囃し唄「ムトス 君」を歌ってくれました。替え歌「ムトセズの君」も「ムトス」の心を教えます。

「ムトス 君」 やろうかな / やめよかな / やっぱりやろうかな / やりましょやりましょ / 男(女)でしょ / 見たら聞いたら思ったら / せんとすムトス クン / それそれぞれ / やるっきゃない

「ムトセズの君」 やろうかな / やめよかな / やっぱりやめよかな / やめましょやめましょ / アホくさい / 見ても聞いても思っても / せんとせずムトセズ クン / それそれぞれ / 寝るっきゃない



「ムトス・ノート」

そして「ムトス・ライン」



玉井さんはムトスの行動パターンを身につけ真の「ムトス玉井袈裟男」となるために「ムトス・私は」というノートを作りました。何よりも訓練をしなければと1983年からずっとノートに書き貯めているそうです。大きく4つの部分からできています。

「ムトス・私は」 MUTOSU-I am
I'll make myself more positive,
active and creative

君は何を見たか？

What did you see ?

聞いたか？ hear ?

嗅いだか？ smell ?

味わったか？ taste ?

触れたか？ touch ?

何を思ったか？

And how do you feel about it ?

そして何をやったか？

What did you do for it ?

やって何を学んだか？

What did you learn from it ?

索引 Index

人 person 場所 place 対象 object

と の境の踏み越えなければならぬ一線が「ムトス・ライン」です。赤く太い線にしてみました但实际上は躊躇してしまう見えない線です。

「南信州 いむす 21」にも「ムトス」は隠れています。「むす」は「ムトス」から来ています。一度、広辞苑の最後を見てください。

あなたは「ムトス君」？「ムトセズ君」？

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



上田市環境ISO ネットワーク 地域ぐるみ環境ISO 研究会 上田市と飯田市の交流

6月21日(月)市役所りんご庁舎で「上田市環境ISO ネットワーク」の皆さん11人を迎え研究会の事務局6事業所との交流会がありました。



「上田市環境ISO ネットワーク」は昨年発足した上田市の環境市民会議の7つあるワークショップのひとつ。市の呼びかけで上田市内の企業が集まったもの。2年目の今年、上田市がめざしているISO自己宣言の支援、環境ISOをより根付かせるため「ISOヘルプデスク」の開設、相互内部監査の開始の3つに取り組もうとしています。

台風6号の激しい雨と風とあいにくの天候でしたが、環境ISOという共通なものを持つ仲間の交流の輪が確実に広がりました。



研究会から「南信州 いむす 21」「相互内部環境監査」「ISO14001自己適合宣言」について前半で説明。後半1時間余の意見交換をしました。

研究会活動については参加事業所の負荷、リーダーシップや会議の開催頻度、相互内部監査については守秘義務、情報開示、他の組織のマニュアルの理解方法、自己宣言では認証取得を進めるクリーンセンターも自己宣言できないのか、などの質問。

研究会全体の活動に目が行きがちですが参加企業同士の日常の連携がそのベースにあります。異業種の集まりの研究会、それぞれの専門性をお互いが認め利用することが大切。それぞれが取り組みを進め相談し合える関係こそが研究会なのでしょう。

交流会に引き続き 研究会事務局会議

上田の皆さんを送った後、研究会が当面する課題について話し合いました。7/5中部電力浜岡原発の視察、7/17-18信州環境フェア2004への出展、8/26「エコタウン飯田で循環社会を考える」シンポジウムなどなど。

イベント以外にも7/7-30飯田市役所相互環境内部監査への参加をはじめ、「南信州 いむす 21」の上位レベルの仕組みづくりも急がれます。また、27事業所、従業員数7000人というスケールメリットを生かした研究会本来の活動もアイデアを出し展開していく必要があります。



キャンドルナイト in りんご並木 研究会も飛び入りで参加

事務局会議の後、会場を居酒屋へ移して懇親会。りんご並木にある「三連蔵」の二階の2階でのイベントにも酔って失礼でしたが参加しました。「りんご並木活用プロジェクト」が全国での「100万人のキャンドルナイト」に合わせて行った小イベントです。立場の違う参加者がローソクの明かりでりんご並木と環境をしばし語り合いました。



研究会が主体で進める建設部監査 飯田市相互内部監査の打合

6月22日(火)飯田市の建設部を対象とした相互内部環境監査の進め方について打合せをしました。受入・出向により相互に内部監査をし合う相互内部監査。飯田市4年目の実験のひとつが研究会に主となって内部

監査を行ってもらうこと。研究会からの相互内部監査員が主、市職員の内部監査員が従って監査を進めます。建設・環境関連3事業所の担当者に市の中でも専門性の高い建設部4課の内部監査を担当していただきます。当日のチェックリスト作成も含めて。



ブロードバンドで飯田市を紹介 三橋規宏グリーン国富論

5月5日～6日の飯田市での取材をもとにした「南信州の環境文化都市・飯田市の挑戦」が「三橋規宏グリーン国富論」で紹介されています。

5月31日BS-japanで放送されたものがホームページからのブロードバンドで見ることができます。飯田市のあの景色やりんご並木、研究会の萩本代表はじめ地域の仲間も大勢出てきます。飯田にまだ来たことのない皆さんも、ぜひ、ご覧ください。

<http://www.wbc-tv.com/broadband/index-t-main02.html>



Ch2 001 「南信州の環境文化都市・飯田市の挑戦」

(6/1更新)
飯田市は戦後大火で市街地の80%を消失するという悲劇にみまわれたが、地元有志が焼け野原にリンゴの苗木を植え、それが半世紀後の現在、見事なりんご並木に結実したという街。
ISO14001を取得した飯田市役所をはじめ、官民一体になった環境文化都市作りの秘密を遡る。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「地域戦略として地域ぐるみでの 「環境文化都市」への挑戦」 自治体環境グランプリ表彰式



6月19日(土)都市センターホテルで表彰式と懇親会があり、飯田市はグランプリと環境大臣賞を同時受賞。自治体環境グランプリは(財)社会経済生産性本部が環境と経済を両立し環境負荷の低減と生活の質向上(グリーン・プロダクティの向上)をめざす自治体の取り組みを公募し審査し表彰するもの。2004で4回目。



(茅陽一 東京大学名誉教授・自治体環境グランプリ審査委員長からグランプリ表彰状を)



(澤間康雄 (財)社会経済生産性本部理事長からグランプリ記念品を授与される田中市長)

期待、エールの受賞から 真の実力「環境力」へ 表彰理由は次のとおりです。

飯田市ではISO14001や独自の環境マネジメントシステム「いむす」の運用等を通じて市役所を発信地として自治体職員一人ひとりの環境保全意識を高めるとともに環境保全に向けた行動を促し、職員が「環境文化都市」の推進者であるとの自覚を育て、浸透させてきた。

自律的・自発的・主体的な精神を表す「ムトス」をまちづくりの合い言葉都市バックボーンにすえ、職員自らがまず取り組むことから始め、「環境文化都市」形成に向けた自律的な姿勢と仕組みを地域に広く根付かせ、波及させていこうとする行政の熱意とリーダーシップ、行動力に勢いを感じる。同時に「いむす21」の構築に協働してあつたボランタリー組織「地域ぐるみ環境ISO研究会」などの活動も高い評価に値するものである。

内部での相互監査や自己適合宣言など、挑戦のハードルを自主的に設け、地域における環境保全運動の拡大・深化を自律的に図っていく、たゆまぬ姿勢と行動、戦略的な展開も高く評価することができる。

日々の暮らしや産業などが自然と調和する「環境文化都市」を形成し、地域の経済・社会の活性化をめざしていく飯田市の多面的で芯の通った取り組みが今後さらに発展し、全国の範となっていくことを期待したい。



(環境大臣賞の表彰状の授与)

環境と経済の好循環のまちづくりモデル事業 飯田市が全国11か所の1つに



松本直藏 総合環境政策局長

グリーンプロダクティの向上をめざすこの賞は環境省の進める環境行政の考え方やオーバーラップしている。いまや環境と経済の両立をすでに乗り越え、統合・一体化の時代に入った。16年版の環境白書のテーマは「広かれ環境のわざと心」。最近の自動

車の生産販売のほぼ3分の2はプリウスに代表されるような低燃費低排出ガスのものに。電気冷蔵庫の消費電力量は20年前に比べ3分の1に。このようにいろいろな面で環境を守るという観点で製品などの開発が広がり、経済にプラスになっている。

5月末に環境と経済の好循環の将来ビジョン、2025年の姿を描いた。環境誘発型ビジネスを具体的に実現する手立てとして環境省16年度一番の柱が「環境と経済の好循環のまちづくりモデル事業」(平成のまほろばまちづくり事業)。それぞれの地域の資源を活用し関係者がパートナーシップで参加しながら創意工夫を図り環境のまちづくりを進めるもの。

3か年で数億円の交付金と数千万円の委託費が出る11のモデル都市に飯田市も指定された。環境と経済の好循環を地域の視点から実現していく時代に入った。グローバルな地球環境問題も地域に帰着する。

「失われた10年」ではなく「再生のための10年」

1990年代になり日本経済がダウンしたときに言われた「失われた10年」。それは経済だけでなく社会全体が20世紀型から21世紀型へ再生するための必要な調整期間であった。



加藤三郎 環境文明研究所所長

調整とは大量生産大量消費大量廃棄から循環型経済へ、経済中心から生活の質へ、中央から地方へ、官から民へ。変革への調整の中で顕著に現れたのが環境。環境力を発揮し先端を走る自治体を表彰するこの賞が2001年21世紀から創設された意義は大きい。環境により地域を変えていく動きが全国各地で沸々とあるが、受賞を誇りに。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



相互内部監査 4年目の今年

7月7日(水)~7月30日(金)

飯田市役所の環境内部監査

環境内部監査をオープンにして4年目の飯田市役所の相互環境内部監査が今年7月に行われます。7月7日(水)の水道環境部・総務部から7月30日(金)の環境管理責任者・ISO事務局までの1か月間です。

「相互内部監査」は飯田市役所の「自己適合宣言」の透明性・客観性の担保のひとつとなっています。皆さんの厳しい目で、その現場で取り組みを検証してください。多くの人の参加を心よりお待ちしております。

相互環境内部監査 外部を受け入れ外部に出向く

「相互内部監査」は地域ぐるみ環境ISO研究会の参加で始まりました。2001年10月から11月の飯田市役所30課のうち7課の環境内部監査に研究会メンバーの7事業所から7人が参加して始まったものです。

「内部監査」は本来(通常)組織の内部で、内部の人によって行われます。「相互内部監査」は文字どおりお互いに内部監査をしようものです。内部の人に加え、外部の人が内部監査に関わります。内部監査に外部の人を受け入れ、外部に出向き内部監査を行うというものです。一番ISOを知っているISO事務局を監査できる人がいないという悩みが出発点。それなら研究会に参加している実務者がお互いというスタートです。

行政という特殊性 研究会に県内自治体を加えて

2年目2002年の飯田市役所の相互内部監査は30課のうち23課の環境内部監査に研究会から延べ20事業所20人が参加しました。「長野県環境ISO自治体ネットワーク」の自治体からは延べ20自治体41人の参加。このほか研究会以外の民間企業からも延べ9事業所10人が参加。

行政の内部監査に民間企業が参加する意義はもちろん多岐にわたります。しかし、手続きや議決、そして公平性といった行政の特殊性もあります。県内ネットワークに呼びかけ、2002年7月には上田市で、8月には長野市でも相互内部監査が始まりました。

3年目の昨年は、のべ106人 飯田市役所のすべての課で

3年目の昨年は延べ106人の外部の協力を得て飯田市役所の相互内部監査が行われました。おかげさまで、36課全ての部門に外部の人が入るという実験と検証ができました。

研究会からは延べ40事業所40人、県内はじめ自治体からは延べ28自治体37人の参加。研究会以外の民間企業から延べ13事業所13人、審査員など延べ16組織16人も参加。参加のあった所沢市では周辺市との相互内部監査が始まるそうです。

4年目の相互内部監査 「監査」と「見学」に整理して

今年の飯田市役所の相互環境内部監査は外部からの参加を「監査」と「見学」に分け、受け入れて行きます。「監査」は監査チームの一員として位置づけ参加していただきます。「見学」はこの相互内部監査という仕組みを広めるために受け入れるものです。「見学」はEMS(ISO14001、南信州いむす21など)に取り組む事業所等にお勤めの方やEMSに興味をお持ちの方など広く受け入れます。

相互内部監査員として 「監査」に参加するには

昨年の相互内部監査の実験の反省から次の「資格条件」と「参加条件」を設定させていただきました。

「資格条件」

次のいずれかの条件を満たす方
環境マネジメントシステム審査員
資格(審査員補以上)をお持ちの方

研修機関の内部環境監査員研修を終了した方

お勤め先等でISO14001内部監査の実績が2年以上ある方

「参加条件」

監査チームの一員として内部監査に参加していただきます。事前にメール等で飯田市の内部監査チームリーダー等との打合せが必要となります。

南信州いむす21に反映させる 飯田市役所の実験に

今年の飯田市役所の相互環境内部監査は研究会との連携をさらに深めたものになっています。昨年までは市の2人の内部監査員が中心に監査を進めていました。今年は、建設部の事業課を担当する内部監査員2人のうち1人は研究会からとしました。

今年新たな実験の建設部で都市整備課と土木課は木下建設の藤本さん、建築課は恵那興業の代田さん、国県関連事業課は吉川建設の稲垣さんがそれぞれ担当します。

相互内部監査参加者を募集!!

日程表を見ていただき、飯田市役所の相互内部監査に参加を希望される方は申込んでください。次の内容をメールにてお送りください。

お名前
勤務先など
電話番号
資格・経験
監査をご希望の課(複数可)
「監査」「見学」の別

ic1570@city.iida.nagano.jp

(担当:小野寺聡一)

文字ばかりの通信になってしまいましたことをお許しください。飯田市の実験にぜひお出かけください。全国の皆さんと飯田の地で会えるのを楽しみにしています。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



中央通り商店街 1・2・3・4 丁目で 「南信州 いむす 21」を

「中央通り 1・2・3・4 丁目商店街」(GARDEN1・2・3・4)は、その名のとおり JR 飯田駅前から中心市街地にあります。この GARDEN1~4 の全体である「GARDEN'S」でもうすぐ地域独自の EMS「南信州 いむす 21」に取り組むことになりました。

まずは 4 丁目・3 丁目から



(駅前の GARDEN4、遠くの山が風越山)

JR 飯田駅前の GARDEN4 と隣接する GARDEN3 が昨年 2003 年 10 月 14 日、取組宣言を提出しました。ちょうど研究会の事業所代表者会の席でした。GARDEN4 の役員は説明会を開催したり個々の店舗(事業所)へ説明に出向いたりして 51 店舗の名簿をつけての宣言でした。

GARDEN3 も GARDEN4 の呼びかけに早くから応え説明会に参加するなど 24 の店舗が参加しました。

次に 1 丁目、そして 2 丁目へ

GARDEN1 は今年 2004 年 5 月 20 日、代表の鈴木さんが 13 店舗の参加という取組宣言を提出しました。

GARDEN2 役員会も取組を決定。代表の吉川さんが各店舗に活動を説明し、取組宣言の提出の準備中です。

「飯田りんご並木」は中央通り 1・2 丁目の交差点からが動物園まで続く 400 メートルです。



小さな取組から無理なく

GARDEN3・4 の取組宣言から半年余で全体としての GARDEN'S の取り組みとなるところまでできました。

最初から一気に進めるのではなく先行できるグループが動き出し、条件を整え、後続を迎え入れる。先行グループの中でも先行する店舗がリーダーシップを発揮して引っ張っていく、そんな姿が無理なく自然です。

それぞれの名簿も同様です。そこにある全ての店舗が名簿にあるわけではないのは当然です。載っている店舗の中にも「付き合い」というものもあるでしょう。参加していない店舗が参加しやすいような無理のない環境改善の取り組みを進めて欲しいものです。

JA 川路支所・阿南消防署も

今年 3 月から職員 9 人の「みなみ信州農業組合川路支所」が「南信州 いむす 21」の取り組みを始めました。地域の JA における先行グループの活動が果たして大きな組織を動かせるか期待し、見守っています。

5 月から「飯田広域消防阿南消防署」で取り組みが始まりました。広域消防本部としては 2002 年 11 月から始めています。さて行政組織として登録申請がどの段階で出されるかが問われていると言えます。どこまで進めるか、どこで納得するか、です。



メリットは自分で考える

あくまでも環境改善の取り組みは、「自発的なものでなければならぬ」「経済的なインセンティブで誘ってはいけない」。この地域では、そんな考え方で進めているつもりです。

地域独自の EMS「南信州 いむす 21」に取り組むメリットは「ありません」「誰も与えてくれません」「取り組もうとするあなた

自身が見つけ出してください」「あなた自身が決め周りの人からとやかく言われるものでもありません」「見出せないかぎり本当の取り組みはできないかも知れません」

自発的な「南信州 いむす 21」、それだけ本物の ISO14001 よりも単純で純粋かも知れません。しかし「南信州 いむす 21」取組事業所が増えれば、地域全体のレベルアップが図られる。結果として人やものをこの谷に呼び込むことができるはずだ。

自己宣言レベルへの挑戦を

ISO9001 を認証取得し 2 回目の更新審査を終えたばかりの地元企業から、いよいよ環境、ISO14001 の取り組みについて相談がありました。

「取引先からの強い要請はありますか?」「そもそも何のために環境に取り組もうとお考えですか?」「経営トップに施設改善の経費を含めた決意はありますか?」「登録証が目的ですか?」質問は、自分自身に対する原点・基本への問いかけでもあったのです。

あのワクワクした喜び

「プレジデント」6.14 号「職場の心理学」

100「脳と心が成果主義を拒絶する理由」(文:清野由美)につぎの言葉がありました。

「成果を上げた褒美として、報奨金をもらうこと、普段会えない社長から握手を求められること、どちらが社員にやる気を与えるかという、それは断然、後者なんです。ですから会社はお金を社員のインセンティブにはしはけない、社員には金銭ではなく、本人がやりたい次の仕事で報いるべきです。それでなければ現場は疲弊し、やる気は失われていきます」

「算数で 100 点を取ったとき、あるいは図画で花丸をもらったとき、どうして自分はあんなにうれしかったのか。それは「100 点を取ったら、100 円あげる」と、人から言われたからではない、ある目標を成し遂げること自体に、私たちはワクワクとした喜びを感じていたはずだ。」

「小さな取組から無理なく」メリットは自分で考える」重ねて問います。甘いでしょうか?

【ご意見、お問合せ】【配信解説】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



今年の「環境の日」6月5日 未来エネルギー展

「環境の日」の飯田市での地球温暖化防止イベントは飯田サティ(株)マイカル)での「電気をおこせ!未来エネルギー展」でした。共催の飯田サティの入口付近に風力・太陽光・コジェネ・低公害車を展示し、買い物客にそれらを実際に見てもらいました。

「梅雨に入ったとみられる」との発表の前日、見事に晴れた暑い日のイベントでした。



小型風力発電装置はカインド パワ、神鋼電機、初スエーデン・アド・リースのそれぞれ形状も異なる特色のある3社。太陽光発電システムはシャープと三菱電機。マイクロタービンは明電舎。ハイブリッド車のトヨタのほか電気自動車や電気バイクも展示されました。



たとえ小さなイベントでも 実際に見ても興味をもって...

2階の会場ではミニ講演会「伊勢市から発進!風力発電装置そよ風くん」もありました。終了後には科学クラブの中学生らが講師(神鋼電機の渡辺準也さん)に熱心に質問していました。工業高校の先生たちも熱心に...



「電気をおこせ!」 元気をこせ! やる気をおこせ!



5/28まで環境自治体会議 いだ会議があり限られた中での担当者の準備。呼びかけに飯田サティ(CS担当森山さん)はじめ多くの企業の協力があり実現できました。

今回のイベントのテーマは「電気をおこせ!未来エネルギー展」。起こすのは「電気」ですが「元気」「やる気」を起こしたら、ひよっとしたら...。そんなことを感じました。

「南信州おひさま進歩」が NPO法人として活動開始

太陽光発電を設置している世帯数は飯田市の独自の調べで現在716戸です。全世帯に占める割合は2%、国平均のおよそ5倍という普及。

約30%の太陽熱普及という背景もあり外から来た人たちが屋根の上の太陽光発電の多さに驚きます。2010年に全世帯の30%を目標に1997年から飯田市の利子補給制度で誘導してきた経過もあります。



5/27県から「南信州おひさま進歩」のNPO法人の設立認証がありました。登記を済ませ本格的な稼働です。個人や企業での太陽光発電から市民太陽光発電へ。個人の屋根だけでなく公共的な建物の屋根にまでも。この地域に太陽光発電の新しい環境文化が大きく動き出しました。

いだ会議第4分科会で点灯した私立明星保育園が第1号。私立幼稚園や民間企業、そして高校など次の計画が進んでいます。

市民からの出資が 太陽光発電の普及に



NPO法人「南信州おひさま進歩」への1口12,000円の個人出資から始まります。出資金12,000円に対して10,000円の商品券が返ってきますので実質は1口2,000円の出資。NPO法人は出資と会員会費と商品券支払いの値引きなどで運用します。

この商品券は地元スーパーチェーン「キラヤ」の通常のものです。新たに地域通貨やエコマネーを流通させるのではなく、すでに流通している商品券を使います。「キラヤ」は商品券に付加価値をつけるために例えば温泉など多くの店との提携を進めます。

大ざっぱに言って1,000口の出資があれば3kWの太陽光発電装置が屋根に設置できます。この1,000口を誰がどの組織を使い集めるかです。



「環境の日」は1972年6月5日からストックホルムで開かれた「国連人間環境会議」から。環境月間6月にどれだけ仕掛けられるか。それが7月、8月、そして秋につながる...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



環境マネジメントシステム新潮流 仙台でシンポジウム



5月28日(金)、「みちのく環境管理規格認証機構」主催のシンポジウムがエルパーク仙台(仙台市)で行われました。いま全国各地で中小企業向けの地域版環境マネジメントシステムが展開されています。その取り組みを紹介し課題を検証し相互認証にむけた道筋を探りました。私たちの「南信州いいむす21」も発表する機会をいただき議論に参加しました。

動き始めた「みちのくEMS」



NPO 法人「環境会議所東北」が仕掛ける「みちのく環境管理規格」(みちのく EMS)が認証まで本格的に動き出しました。仙台市と連携し広い範囲での普及をめざしています。説明会・構築講座の開催、プレ評価、ファースト評価、セカンド評価などきめ細かいサポート体制があります。

また一貫した評価・審査体制や客観性の高い判定委員会など認証体制もさすがです。広いステージでの、しっかりしたシステム、大きな地方から大きく動き出す予感です。

<http://www.kk-tohoku.or.jp/event/micinokuems.html>

KES、エコステージ、EA21 そして南信州いいむす21

KES(環境マネジメントシステム・スタンダード)は荒川佳夫さん(京みやこのアジェンダ21フォーラムKES認証事業部副事業部長)から紹介されました。学校・ステップ1・ステップ2で349件の実績。大津・岩手・弘前・神戸そして三重と京都以外でも全国や企

業グループなどさまざまな地域、組織で指示されての展開は圧巻です。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/index.htm>

エコステージは手嶋幹さん(有限責任中間法人エコステージ協会東京地区事務局株UFJ総合研究所研究員)が紹介。レベルI~Vという5つのステージを持ち、評価(現状分析)と支援(コンサルティング)を組み合わせた制度です。

グリーン調達と説明責任を推進するため、自己宣言と外部評価制度を活用し、環境改善を支援。形式よりも中身と効果に重点をおいた「エコステージ評価」を通じ、EMSがいかに経営に役立っているかを評価し、ステップバイステップで「システム」と「パフォーマンス」の継続的改善を支援します。

<http://www.ecostage.org/>



エコアクション21(環境活動評価プログラム)は石川宣明さん(環境省総合環境政策局環境経済課)から説明。8年に策定され、11年改訂、16年度から環境省が新たに認証登録制度を導入しました。注目されている地域版EMSとの相互認証について、早急な仕組みづくりへ大きな期待があります。相互認証にエコアクション21のレベル以上の確保は当然です。
<http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/ecoaction21/index.html>

「南信州いいむす21」にも基礎的なものの上の2つ目のレベルに「エコアクション21レベル」を位置づけました。独自のシステムを作るのではなく、ISO14001以外のEMSの全国版としての「エコアクション21レベル」を使います。今までの支援と同様、研究会がボランティアな支援を行います。相互認証に値するようになるものにするつもりです。最上位のレベルは「自己適合宣言レベル」、仕組みづくりが急がれます。

みちのくEMSは細井実さん(みちのく環境管理規格認証機構事務局長・仙台市環境部長)から紹介されました。「みちのくEMS」は「環境先進都市」をめざす仙台市だけでなく広範な東北域内での展開を図っています。

仙台市だけを対象とするだけでも十分なのに…。環境省が進める「エコアクション21」や他の地域の地域版環境マネジメントシステムと相互認証など連携のうえで仙台市の強力なリーダーシップが期待されます。



南信州地域という18万人のステージで研究会のボランティアな支援により費用ゼロにこだわっている「南信州いいむす21」。他の大きな仕組みとは比べものにならない小さな仕組みです。この交流は私たちの仕組みにとって大きな参考になりました。

環境会議所東北の須藤さん・山岡さんというすごい人たちとの出会いは何よりの財産です。今回の交流にも不思議な、しかし確実な縁を感じます。環境会議所東北が主催し4回目になる「環境甲子園」はぜひもうひと頑張り全国展開をして欲しいですね。



環境会議所東北のホームページ

<http://www.kk-tohoku.or.jp>

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精工機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



5月28日 いいだ会議全体会で 3日間の環境自治体会議終了

3日目の28日の午前中、文化会館で全体会が開かれました。準備の遅れもあり申し込みが伸びずに心配した地域外からの参加者も350人。地元での盛り上がりから3日間の参加者はのべ3000人、当初目標の1000人規模の会議となりました。

あらゆる場面で市民の皆さんによる実行委員が大活躍。環境自治体会議12回の歴史の中でも文字どおり市民参加の会議となりました。

田中市長が屋久島での次期開催地のあいさつで約束したとおり3日間とも晴れが続きました。きれいな景色を遠くからの参加の皆さんに見ていただくことができました。

10の分科会の報告 記録の実行委員が



会議の様子が映し出される中それぞれの視点でのまとめと感想。前日の分科会報告は市職員ではなく記録担当の実行委員から行われました。



「いいだ宣言」を採択

すべての漢字にはルビも

いいだ会議宣言は実行委員で企画委員の岡田慶さんが朗読し拍手で採択されました。9月の第1回から計7回の実行委員会と計7回の企画委員会、多くの時間を共有しました。

いいだ宣言

ふたつのアルプスと天竜川のドラマによってできた南信州、飯田市。この地で開かれた第12回環境自治体会議のテーマ、それは「人も自然も美しくめざそう脱温暖化、地域内循環社会をみんなの手で」。

わたしたちは、環境自治体として地域の特性を生かし環境に配慮したまちづくりを進めています。日々の暮らしから産業までもが豊かな自然と調和し、環境がひとつの文化となって輝くまちをめざします。

わたしたちは、緑豊かな水の惑星、地球に暮らす者の責任として温暖化を防ぐため温室効果ガスを減らす行動を展開しています。一人ひとりがライフスタイルを見直し、新エネルギーの活用と省エネルギーの取り組みを具体的に進めます。

わたしたちは、市民・事業者・自治体が協働して持続的発展ができる社会を創り出しています。まさに「何なにしようとする」という「ムトス」の精神で、小さな行動をみずから起こし、地域ぐるみでの大きな変化につなげていきます。

わたしたちは、環境自治体として環境を保護し改善する行動に挑戦し、それぞれの地で確実な歩みを進めています。そして、今まで以上に地域内循環社会を先導するひとつのモデルとして全世界にむけ発信していきます。

わたしたち会議参加者は、全国の仲間とともに、この「りんご並木と人形劇のまち」飯田で以上のことを誓います。

2004年5月28日
第12回環境自治体会議 いいだ会議
～企画から運営まで市民が主体の
実行委員会とともに～



宣言はつぎの考え方で作られています。

会議の記録としてではなく環境自治体会議の今後の方向性を示すもの。いつまでも宣言し続けられるもの。1段落2文で前半は実際にやっていること後半は方向性。危機感をあおる悲観的なものではなく楽しく夢のあるもの。会議のテーマと飯田のキーワードを盛り込むもの。長文でなく簡潔なもの。簡易な表現とし次世代を担う子どもたちも含め市民に分かりやすいもの。

「ふるさと」を全員で



そして次期開催地茨城県東海村の村上村長のあいさつ、松島実行委員長のあいさつ。最後丸山小学校6年生101人による「翼をください」と「ふるさと」の合唱。小学生が「ふるさと」1番を歌った後、会場の全員が3番まで大合唱。大きな感動のなか3日間のいいだ会議が幕を閉じました。



遠くから参加していただいた多くの人たちが、まちの美しさと市民参加の素晴らしさに感心していました。流されがちな日常生活のなかで自分たちの気づかないことは多いものです。あらためて自分たちのまちや取り組みを認め、正しく評価したいものです。そしてこの成功体験を環境への新たな取り組みのスタートとしたいと願います。3日間ほんとうにありがとうございました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



5月27日いいだ会議2日目 10のテーマで分科会

各分科会はテーマや話題提供者はもちろん会場にもこだわった運営を行いました。市民太陽光発電の点灯式、沢登りや市街地でのフィールドワークも。参加者は分科会の46人から分科会の174人まで。



ごみは減らせる！...人形劇場



地域発！エコ交通...文化会館



EMSの最前線...多摩川精機株



地域共同型エネルギー政策
...明星保育園・三菱電機株飯田工場



これからの山、森林を考える...おいで館



水環境の整備と保全...かわらんべ



環境教育...おいで館



地域特性を活かしたツーリズム...ごんべい邑



地域内循環をめざす農業と食文化
...柿の沢区民センター



人も自然も美しいまちづくり、
景観づくり...りんご庁舎
3日目の分科会報告でもそれぞれ10枚の
写真を使って様子を伝えました。1つの
分科会を1枚でとは無理があります。分科
会は午前3つ、午後5つ、終日2つでした。

手づくりの交流会

体育館で400人が参加して



勤労者体育センターでは18時から交流会が開かれました。実行委員会のうち女性団体10団体・20人が五平餅などの手作り料理を用意。

環境の会議、交流会だけでなく昼の弁当も使い捨てでない容器や塗り箸、ポットのお茶で対応。10分科会のうちの3分科会では現地で昼食を用意しました。



ステージでは獅子舞や囃子、稚児行列などが400人を歓迎しました。



屋久島から飯田市へ そして来年の東海村へ



村上東海村長・田中飯田市長・矢野上屋久町長

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



第12回環境自治体会議 いいた会議 5/26~28 参加者はのべ3000人



環境に積極的に取り組み、お互いの連携によって取り組みをさらに進めようとする全国70の市区町村でつくる環境自治体会議。その第12回会議が5月26日から28日の3日間、私たちの飯田市で行われました。

3日間の参加者は26日の全体会が1150人、27日の分科会・交流会が1035人、28日の全体会が750人。

ぐるみ通信 64・65・66で多くの写真を使って様子を伝えます。濃い内容のほんの一部ですが、いいた会議をお届けします。



「人も自然も美しく めざそう脱温暖化 地域内循環社会を みんなの手で」

少し長いですが、いいた会議のテーマです。実行委員会・企画委員会でキーワードを出し合い決めたものです。今回の環境自治体会議は市民や事業所による実行委員会が主体となって企画と運営を進めました。

環境自治体といっても自治体ができることはほんのわずかです。しかし、みんなでやるということは手間や時間もかかるもの。どの担当も準備に遅れ、かなりのあせりと追い込みで会議の開催に間に合わせました。

5月26日いいた会議が開幕

飯田へ訪れてくれた全国からの120自治体の仲間350人を素晴らしい天候で迎えることができました。

オープニングのひとつが地元竜峡中学校今田人形クラブによる人形浄瑠璃「三番叟」。300年という伝統芸能を受け継ぎ伝えている中学生です。



松島実行委員長 会議を大きなきっかけに

開会式では松島信雄実行委員長は「この会議が一人ひとりの理解と認識を深め地球の明るい未来のために新たな行動を起こすきっかけになれば幸い。一人から地域全体へ、地域から日本全国へ、そして地球全体へと輪が広がることを期待したい」と。



「環境文化都市」 りんご並木そして人形劇

「環境文化都市」、「りんご並木と人形劇のまち」飯田を紹介する3つのイントロダクション。田中市長は「環境文化都市をめざす飯田市の環境施策と現状」を、東中学校りんご並木委員会の生徒代表2人が半世紀のりんご並木の歴史と年間の作業の様子を、りんご並木という伝統として時間と人を、そして学校と地域を「つなぐ」をテーマに問題の提起としました。

高松和子人形劇フェスタ実行委員長は「みる・演じる・ささえる」という海外を含めた劇人と市民の交流を紹介。フェスタ26年の歴史は地域の伝統芸能と活性化し合っている。静としての「りんご並木」、動としての「人形劇」の役割を強調しました。



基調討論「しくみをチェンジ! 環境へチェンジ!」



東京農業大学の進士五十八学長の基調講演「りんご並木・飯田に学ぶ都市の個性」に続き、基調討論。田中知事・大藏平塚市長・西寺多治見市長・山岸勝山市長の4人をパネラーに藤井絢子さんの司会で進めました。



夕方からは環境自治体会議委員の市区町村長による総会、そして一般参加者は交流懇談会。軽食とソフトドリンクというアルコールを出さない二つの出会いと再会の会議でした。

会議の成功はまず天候に恵まれたこと...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会 三重県で 第2回日本環境経営大賞



日本環境経営大賞表彰委員会・三重県主催の表章式は5月24日、四日市都ホテルで行われました。研究会の海野幹夫運営委員(株)平和時計製作所社長)が登壇し、筑紫みずえ審査委員(株)グッドバンカー社長)から表章状を受けました。

この日本環境経営大賞は2002年度に三重県により創設されました。2回目の2003年度は全国から121件の応募があり各賞17件が選ばれ、研究会は「環境フロンティア部門」「地域交流賞」を受賞しました。



パンフレットの受賞理由にこうありました。市民、企業、行政が連携して、「点」の活動になりがちな環境保全活動を地域ぐるみで地域全体の「面」の運動として広がりを見せている取組。環境改善の地域文化創造を活動理念とし、民間主導で発足した研究会「地域ぐるみ環境ISO研究会」(28事業所、従業員総数7,000人超)。事業所のISO14001認証取得支援など地域全体の環境経営レベルアップの推進的な役割を担っている。中小・個人事業所向けの地域独自のEMSとして、「南信州 いむす21」を構築・支援し、現在の取組数は170、登録証発行45事業所と地域に定着。また、飯田市役所のISO14001審査登録から自己適合宣言への移行では、会員事業所との相互内部監査等で担保するなど、企業市民活動を通じて行政と企業と市民をつなぐ大きな力として機能している。* 部分現在に訂正



表章状は自然の恵みあふれる三重県産の木製、板部分はスギ、枠部分はケヤキです。かわいらしい副賞も。

受賞者記念講演 アサヒビールと星野リゾート

アサヒビール株神奈川工場は「環境経営パール大賞」、(株)星野リゾートは「環境経営優秀賞」。受賞者のなかから2つの記念講演がありました。



日本環境経営大賞のホームページ
<http://www.eco.pref.mie.jp/kigyosho/taisyousho/taisyousho.htm>

第4回自治体環境グランプリ 環境大臣賞・グランプリ 飯田市が同時受賞

飯田市が「第4回自治体環境グランプリ2004」で「環境大臣賞」「グランプリ」の同時受賞となりました。

この賞は(財)社会経済生産性本部が主催するものです。環境と経済を両立し、環境負荷の低減と生活の向上(グリーン・プロダクティビティの向上)をめざす自治体の取り組みを公募し、審査のうえ表章するもの。

一次審査は4月7日、応募総数22自治体の書類審査(委員長:永田勝也早稲田大学教授)。二次審査は一次審査を通過した6自治体によるプレゼンテーションと質疑応答(審査委員長:茅陽一東京大学名誉教授)。

地域戦略として 地域ぐるみでの 「環境文化都市」への挑戦

これが飯田市の応募した取り組みです。グランプリ受賞は3件、「環境大臣賞」はグランプリの中でも、とりわけ優れた取り組みに対し授与されるものです。表章式は6月19日。

<グランプリ受賞> 北海道沼田町「雪と共生するまちづくり」 西宮市「人を育み、人が育む」環境学習都市・にしのみや」 沖縄県平良市「地下水保全への取り組み」

<優秀賞> 利尻町「利尻島の景観保護及び環境の保全をめざして」 白石市「白石市の環境負荷軽減へのチャレンジ」

<http://www.kankyogp.jp/top.html>

環境自治体会議の 大きなはずみに

26日から28日に行われる環境自治体会議。いまだ会議直前のこのような名誉ある賞の受賞を大きな喜びとしたいものです。環境自治体会議。いまだ会議も市民や事業所による実行委員会です。これまでの準備を進めてきました。今回の受賞もそうした協働が評価されたものととらえています。「地域ぐるみ環境ISO研究会」が「地球温暖化防止環境大臣賞」や「第13回地球環境大賞」や「第2回日本環境経営大賞」を受賞していますが、地方自治体として飯田市が今回、受賞できたことは新たな喜びです。

飯田市としては太陽光発電の普及という限定的な分野での環境大臣賞は過去にあったものの、今回のような環境施策全体の総合的な評価としての環境大臣賞受賞は初めてです。

これまで以上に「環境文化都市」を地域経営戦略として市民や事業所と連携して進めていきます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



飯田工業高校生徒会に 「南信州いむす21」 登録証を交付!!



5月20日、生徒数552人の県立飯田工業高校の生徒会に「南信州いむす21」の登録証が交付されました。体育館での生徒会全校集会で南信州広域連合副連合長の吉川貢・高森町長から生徒会ISO推進委員長長の東田優さんに手渡されました。



3年生の東田さんが1年生のとき「南信州いむす21」の取り組みが始まりました。ISOが何であるかも当時分からなかったものの、活動を続けているうちに先輩たちの熱意のすごさに触れたそうです。

先輩たちの活動を引き継ぎ、後輩たちにきちんと伝えていきたい。あらたにISO推進委員会ができ委員長になり、みんなの前で、しっかりと自分の言葉で語りました。

審査申請にもとづき

生徒会に対して登録審査

5月11日、研究会が生徒会ISO推進委員の取り組みを審査しました。毎月1回の全生徒による高校周辺での「おいで清掃」、年2回の校外外美化活動。「ISO新聞」の発行など地道な活動を続けていました。

どの組織も自分たちの取り組みにある程度の納得ができないと審査申請を出さないものです。工業高校も取組宣言から今回の登録までじつに2年近くかかりました。生徒会役員も、校長も、担当教師も替わるなか、継続の力とともに、この地域の他の高校への広がりがなくとも、取り組みの難しさも感じます。



「南信州いむす21」の仕組みは規模の小さな事業所での環境改善の取り組みを進め、地域でのすそ野を広げることを目的にしています。ISO14001のPDCA、継続的改善の考え方を基本にスタートさせました。「取組宣言」提出後、3月以上の実際の環境改善活動があり、審査申請が出てくると研究会が現場へ審査にうかがいます。

次はISO14001へ挑戦

生徒会の役員がISO14001に取り組みたい、認証取得をめざしたいと校長に相談してから始まったのが飯田工業高校の「南信州いむす21」です。2002年8月30日、半端でない暑い体育館で行われた文化祭の開祭式でのキックオフ。生徒会や教職員で勉強会を何度も開いて、高校生らしい取り組み、工業高校生らしい取り組みを研究し続けてきました。



はじめからISO14001にもとづく取り組みを飯田工業高校はめざしていました。しかし県立高校、県の予算がつかなければISO認証取得の費用は用意できません。この「南信州いむす21」の登録証の交付をきっかけにシステム構築を進めることになるでしょう。研究会も支援していきます。

環境自治体会議

環境教育の分科会で発表

飯田工業高校生徒会の取り組みは26日から飯田で始まる環境自治体会議いいた会議の第7分科会でも発表します。「生徒会から発信する飯田工業高校の環境ISO推進活動」です。

これまで生徒会中心で進めてきましたが、今後は学校、教職員の関わりも今まで以上に大きくなっていくことでしょう。生徒は3年間ですべてが入れ替わってしまいます。しかし、何より楽しい取り組みが続けられることが大切。担当の中原先生は環境自治体会議の実行委員としても熱心に参加してくれています。きっと大きな力になってくれるはずです。



環境自治体会議まであとわずか。一番新しい天気予報は次のとおりです。飯田へ来ていただける皆さん、ご安心ください。

5月26日(水)	5月27日(木)	5月28日(金)
気温(度) --/-- 降水確率(%) 10	気温(度) --/-- 降水確率(%) 10	気温(度) --/-- 降水確率(%) 20



【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



受賞・評価に値する活動にむけて 事業所代表者全体会



5月10日15:00~17:00保健センターで研究会の事業所代表者全体会が開かれました。研究会を構成する27事業所のうち24事業所から40人の参加がありました。今回の会議の目的は「南信州いむす21」の仕組みを見直すことでした。登録証の発行を行い連携する南信州広域連合事務局長ら2人も参加しました。

「南信州いむす21」に 3つのレベルを

「南信州いむす21」への取組宣言は160事業所を超え、登録事業所も44事業所。2001年10月にスタートさせた「南信州いむす21」も2年半、課題も見え始めてきました。「南信州いむす21」、現在の基礎的レベルとは別に2つの上位レベルを設けることになりました。4月12日に研究会の実務者全体報告会で議論したものを20日の事務局会議でさらに検討し、この日提案しました。

地域への普及! レベル1は 現状の基礎レベル

「南信州いむす21」は、ハードルの高いISO14001でなく地域独自の環境マネジメントシステムです。地域での環境改善の底辺拡大、すそ野を拡げることがめざしてスタートさせたものです。それは研究会参加事業所のISO14001運用のノウハウを地域に還元しようとするものです。

「南信州いむす21」の範囲を飯田市と下伊那郡という南信州に限定しました。地域を外れた事業所からも登録の話がありました。しかし、負荷の問題もあり、地域への還元、

地域のレベルアップを優先しました。レベル1は現状の基礎レベル、多くの事業所での取り組みを進めます。

次の段階へ! レベル2は エコアクション21の仕組み

「エコアクション21」は環境省が進めている環境活動評価プログラム。このレベルを「南信州いむす21」のレベル2として登録事業所へ継続的改善を働きかけていくことになりました。事業所の主体的な取り組みを研究会が支援し、南信州広域連合が「南信州いむす21」のレベル2として登録する。費用はゼロです。



無理して独自の仕組みを新たにつくるのではなく「エコアクション21」の仕組みを使います。「エコアクション21」は審査登録制度の導入など2004年度から大幅に変わりました。支援する研究会としてまずはシステムを理解しなければなりません。

<http://www.napec.or.jp/jigyoku/kanri/#top>

最高のレベル3は 自己宣言レベルへの結集

「南信州いむす21」のレベル3は、ISO14001自己適合宣言レベルです。飯田市役所は2003年1月23日、全国の自治体で初めて審査登録から自己適合宣言に移行しました。この移行で客観性と透明性を担保しているのが研究会との連携です。

相互内部監査として研究会の事業所は飯田市役所の内部監査に参加しています。また審査登録を維持している事業所からの審査情報の共有なども審査登録から外れた市役所にとって大きな力となっています。

地域で検証し合う仕組みのなかで行政だけでなく民間事業所も自己適合宣言への移行を検討する。「南信州いむす21」のレベル3は、その受け皿とします。ISO14001規格要求

事項に相互内部監査やシステム全体の情報開示などを加えた仕組みとします。飯田市役所の一步先行く挑戦が地域への広がりになれば、新しい環境の文化が生まれます。

海外との取り引きでISOの認証が必要な事業所は自己適合宣言への移行は極めて困難です。必ずしもISOの認証がいるわけではない事業所もあります。ある程度システムの定着ができた段階で自己適合宣言への移行も検討してもらいます。すでに自己適合宣言への移行を視野に入れている研究会事業所もいくつかあります。

審査員の登録そして研修会を

このように「南信州いむす21」に上位レベルとして「エコアクション21」レベルや「自己適合宣言」レベルをつくることになりました。研究会として審査員のレベルも確保しなければなりません。次の資格要件で研究会として登録することにしました。EMS審査員補(以上)の資格保有者 外部機関の内部監査員講習会修了者 3年以上の内部監査経験者。また、研修機関による本格的な内部監査員養成研修を研究会として行っていくことになりました。

システムができて

取り組む事業所がないと

「南信州いむす21」にレベルを加えたとしても実際に取り組む事業所がなければ何の意味もありません。レベル2と3の登録証の発行にむけ研究会として仕組みを整理し、説明し理解を求めていきます。

昨年12月、環境大臣賞を受賞した祝賀会以来の事業所代表者の集まりでした。今回も、第13回地球環境大賞授賞式の様子を報告することができました。さて、受賞・評価に値する活動にむけて研究会も...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp